



「世界を知って視野を広げたい」という曖昧な目標を掲げて、私はカナダのニューブランズウィック大学への留学に踏み切りました。留学して得られたものについて書きます。語学力の向上、世界に関する見識が広がったことを取り上げます。

まず、語学についてです。「留学してしまえば、自然に英語が話せるようになる」というイメージが私にはありました。どう考えてもそんな訳はないのに、留学するだけで魔法のように英語が上達するのだという考えが私の中にありました。それはおそらく、留学経験者たちの語学力がそういったイメージを作っているのだと思います。ただ、当然ですが、そんなことはありませんでした。英語圏に留学すれば英語を使う機会が圧倒的に多いというだけで、機会を活かさずに英語に触れなければ上達しません。少し悪い表現になりますが正直に言って、留学してもあまり英語が上達しない人もいます。割とたくさんいます。言うまでもありませんが、英語を使わないからです。逆に、英語を上達させようという姿勢があつて積極的に話せば、当然ですが伸びます。

留学するメリットを語学の面から考えた時に、言葉に触れる機会の他に、「通じる英語」を身につけられる点が大きいのと思います。私の場合は、かなり英語力が低い状態で行ったので、発音が悪くて通じないことも、自分の不自然な表現に気づくことも多くありました。日本にいる海外出身の方は、日本の発音に慣れているため、日本語に近い発音でも通じることが多いです。しかし、英語圏の人たちにとって日本語訛りの英語はとても通じにくらしく、通じないことが多々ありました。日本語と違って英語は子音が強いこと、母音が多いこと、アクセントの強いことなど、改めて実感する機会が多かったと思います。英語を含めて他の言葉を知るにつれて、日本語がどういう言葉なのかも分かってきました。語学力は向上したと言えます。



学期間の冬休みに、8 日間の旅行に出ました。年越しをナイアガラの滝で過ごすという、思わず自慢したくなるようなエピソードができたのでここに載せてみましたが、あまり伝わりません。実際は割と感動します。知らない人と”Happy new year!!”と叫び続ける雰囲気がとても新鮮で楽しかったです。

次に、世界に関する認識です。カナダは国際的な国で、海外からの移住を積極的に受け入れています。結果として、国民の20パーセント以上が海外の出身者と言われています。ちなみに日本ではその割合が2パーセントに満たないそうです。つまり単純に考えて、カナダでは海外の出身者と会う機会が日本の10倍以上あるということになります。大学では留学生が多いので、実際にはさらに多いと思います。世界各国の友達を作れる機会に溢れています。世界中に友達ができると、世界中の国のことを知ることができます。友達ができただけの瞬間に、知識として頭の片隅にあっただけの国が「自分の友達の国」といった認識に変わります。身近になります。その人に興味を持って、その人の国について知りたいと思うようになります。それがすごく素敵なことだと思いました。そう思わせてくれるような人にたくさん会うことができました。そうして世界の国々についての理解が深まると、日本という国がどんどん分かってきます。中でも、日本がいい意味での個性を強く持っていることを知ることができてよかったです。世界の国々について、私たちはイメージを持っています。例えばインド人はカレーを食べていて、ロシアはものすごく寒い、といったイメージです。それを考えたときに、日本には誇れるものがたくさんあって、しかも世界的に認知されています。寿司と天ぷらがおいしくて、マンガとアニメがおもしろくて、日本建築と桜がきれいで、車とトイレの技術が高く、歴史がある。日本に生まれたことを誇りに思うのに十分すぎる程の事実があることを知りました。それも日本の外に出て、世界を知ったから得られたものです。

留学中に辛かったことは山ほどありましたが、経済的な負担も大きかったですし、私の場合は卒業も遅れる見込みです。しかし、それでも留学するという決断は正解だったと強く思います。辛い経験も多かっただけに、学んだことは大きいものでした。留学前は曖昧だった「視野を広げる」という目標も、達成したと言えます。それを説明するのに十分な経験ができました。

アイスホッケーがとても盛んで、ニューブランズウィック大学はカナダ国内で優勝したことがある程の強豪チームです。何度かゲームを見に行きましたが、一度も負けを見たことがありません。自分は何もしていませんが、何かすごく誇らしいものを感じました。

